

令和7年度 公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成事業
 国立曽爾青少年自然の家 教育事業 森の子パークで遊ぼう、学ぼう（3月）

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
- [助 成] 公益財団法人 スポーツ安全協会
- [協 賛] 焙煎工房森の珈琲屋（物品）
- [期 日] 令和8年3月7日（土）、8日（日）
 （両日日帰り・宿泊参加あり）
- [場 所] 国立曽爾青少年自然の家 キャンプ場
- [対 象 者] 幼児・小学生を含む家族
- [参加/募集] 140名/263名
- [講 師] 山本 剛 氏（名張グリーンキーパーズ：伐倒・森の観察会）
 辻本 裕和 氏（自然体験活動指導者：薪割り体験）
 上長野 ゆみ 氏（kiond マネージャー：木育プログラム）
 西尾 和隆 氏（杜を育む伝統土木設計事務所：森の整備）
 河原 啓之 氏（庭せわ：森の整備）
- [担 当] 菱川裕輝・増田学・小西岳勝・千葉博仁



1 趣旨・目的

- 森の中で子どもたちが元気に遊び、遊びを通じて森林環境について学びを深める。
- 「森を大切に作る人」、「森の中で遊び、親しむ機会」を増やす。

2 プログラム展開

時間	10:00～	10:45～	15:15～
内容	はじめの会 森を学ぼう 木こりと行く森の観察会 ・伐倒実演	森で遊ぼう・森を使おう・森を整えよう ①薪割り・焚き火体験 ②丸太切り・間伐材クラフト ③ストライダーコース ④丸太の木琴・アナグマ巣穴観察 ⑤木育コーナー ⑥森をととのえるコーナー	終わりの会 解散

※宿泊者限定：ナイトハイク、絵本読み聞かせ、カプラ、木育展示
 村内体験プログラム（草木染め、ピザ作り、毛糸のコースターづくり）

3 活動の様子

【遊ぶ】森と出会い、体を動かす

広大なキャンプ場を舞台に、子どもたちはそれぞれの「リズム」で森を楽しみました。林間のストライダーコースや丸太の木琴、アナグマの巣穴観察では、未就学児も夢中になって木や生き物の痕跡に触れ合う姿が見られました。上長野氏の指導のもと、木育コーナーでは、それぞれが森のアーティストになって、葉っぱのドレスを仕立てていました。

【使う】森の恵みを活用する

薪割り・火起こし体験では、メタルマッチを使って自力で火を起すことに挑戦。苦勞してつけた火で焼いたマシュマロの味は格別だったようです。丸太切り・クラフトでは、ヒノキの丸太をノコギリで切り出し、絵を描いて、木槌で割って、世界に一つだけの木製パズルを作り上げました。

【学ぶ】木を知り、森を知る

伐倒実演では、木こりの山本氏の合図とともに大きな杉の木が倒れる迫力を間近で体感しました。な

ぜ木を切る必要があるのか、傷ついた元気のない木もミツバチの巣になったり、虫が住み着いたりしていることなど森の循環についての説明に、子どもも大人も真剣に耳を傾けていました。

【還す】森に感謝し、環境を再生する

「森をととのえる」活動では、西尾氏・河原氏の指導のもと、空気や水の流れを整えるための点穴（てんあな）や暗渠（あんきょ）作りを行い、「焙煎工房 森の珈琲屋」より提供された麻袋は、土嚢袋として活用し土留めを作りました。また、焚き火で出た炭を土に還し、砂場遊びの延長のように穴や溝を掘って遊び、出た土を土嚢として積み活用する工程を通じ、遊ぶこと自体が森を豊かにする循環の一部であることを感じ学びました。



（上段左から丸太切り、クラフト、森をととのえる、下段左から薪割り、森の観察会、焚火）

4 ふりかえり

【参加者の声】

- 「最初は『行きたくない』と言っていた子が、最後には『めっちゃ楽しかった！また来たい！』と笑顔になりました」
- 「火が消えないよう兄妹で協力する姿に成長を感じました。スタッフの方の励ましが自信に繋がったようです」
- 「倒された木を可哀そうに思う気持ちと、森を持続させるために必要な厳しさの両方を理解したようです。木こりさんの実演が親子で森について話し合う貴重なきっかけになりました」
- 「こんなことでも森のためになっているんだと知り、もっと自分にできることはないか考えるようになりました。「遊ばせてもらった森に感謝して恩返しをする」という気持ちの大切さを学びました」

【担当者所見】

今回の3月開催では、日帰りプログラムに加え、宿泊プランや村内体験（草木染めやピザ作り）との連携を深め、より重層的に「森の魅力」を伝えることができました。

森の中の体験では、その道のプロと協働してプログラムを提供でき、参加者には、「ホンモノ」を体験してもらうことができました。

ここで芽生えた森への興味が、将来「森を大切に作る心」へと育っていくことを期待しています。